

かゆみ

かゆみは、蕁麻疹やアトピー性皮膚炎のみならず、糖尿病や、透析中の方にも生じる皮膚症状です。かゆみが強いと、睡眠障害やイライラの原因ともなり、引っかけ刺激で皮膚症状が更に悪くなるといった悪循環を繰り返すことになり、かゆみをコントロールすることは皮膚病をよくする上で大切です。

今回は、かゆみに関する情報をお届けします。

質問:かゆみを生じる物質は？

回答:ヒスタミンという物質が関係しています。例えば、卵による蕁麻疹では、卵を食べると、皮膚に存在する肥満細胞からヒスタミンが産生されて、かゆみを生じます。ヒスタミン以外にもかゆみに関係する物質が複数明らかになってきています。透析中の方のかゆみにはオピオイドという物質が関係しています。

質問:かゆみの神経伝達は？

回答:皮膚の細胞で産生されたヒスタミンによるかゆみの感覚は、神経線維を介して脳に伝えられ、かゆいと感じます。以前は例えば、ヘルペスの痛みがよくなる時にかゆみが生じるといったことから、痛みとかゆみを伝える神経は同じで痛みの弱い刺激がかゆみと考えられていましたが、最近、痛みとかゆみを伝える神経は異なることがわかってきました。

質問:かゆみ過敏とは？

回答:アトピー性皮膚炎などでは、通常、かゆみとして感じない刺激に対しても、かゆく感じてしまう過敏状態となっています。湿度や温度のちょっとした変化や、少し風にあたり、髪の毛が触れるだけでもかゆいと感じてしまい、引っかけるとその時は気持ちがいいのですが、引っかけ刺激で皮膚症状は更に悪くなってしまいます。

質問:かゆみの治療は？

回答:かゆみの治療には、かゆみの原因となる皮膚病の診断が重要です。例えば、カイセン虫がかゆみの原因である場合は、カイセンの治療をしないと、かゆみはよくなりません。ヒスタミンなどが関係しているかゆみに対しては抗ヒスタミン剤や、抗アレルギー剤を使用します。皮膚症状に応じた塗り薬も必要です。透析中の方のかゆみには、先に述べましたようにオピオイドという物質が関係しており、オピオイドに対する新しい薬が開発されています。当院では、通常の飲み薬や塗り薬でよくなるないかゆみに対して、種々の治療器を用いてかゆみの治療を行っていますのでご相談ください。

文責(森田秀樹)